



# こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

- ホームページ URL <http://www15.onn.ne.jp/~oikawahp/>
- Eメールaddress [oikawahp@oa.mbn.or.jp](mailto:oikawahp@oa.mbn.or.jp)

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

## 及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 12 2007年6月 発行

## 基本理念

及川病院のめざすこと、その役割と大切なこと

### 親切

私たちは親切な対応とわかりやすい説明を心がけ、患者様の身になって行動しています。

### 信頼

私たちは患者様の一日も早い快復、社会復帰を願い、信頼され、心の通い合う医療に努めています。

### 専門

私たちは乳癌の診断から治療、緩和ケアまでを担う専門病院として、女性の生涯にわたる心身の健康を総合的に守ります。

### 進歩

私たちは常に新しい医療・療養環境を学習し、分析・反省を繰り返し、より優れた医療の提供を目指し進歩し続けます。

## 『大切なものに囲まれて』

院長 及川 達司

運動不足解消も兼ねて、時々散歩をするようにしています。「ウォーキング」などはどうも長続きしないようで、ぶらりと好きに歩くだけです。歩く範囲もホントに近所だけ。しかし、なかなか楽しいものです。まず気づくのが通ったことのない道が案外たくさんあることです。知らない路地、長い土壁、真新しい家、古いお屋敷など、まるで遠くまで旅に来ているような錯覚さえ覚えることがあります。庭先に美しい花が植えられていたり、小さな公園に緑が茂っていたり、私の目を楽しませてくれます。そういう時は、先ほどまでしていた考え事を忘れていて、ゆっくりとした空気の流れが胸に充満します。懐かしいような、嬉しいような、不思議な気持ちになります。

自分にとって大切なものは、案外すぐ近くに隠れ潜んでいるのかも知れません。

及川病院もこの春から新しい先生方にたくさん来ていただきました。皆さんそれぞれ専門分野に秀でた力を持たれており、私自身が学ばされることもたくさんあります。新しい元気な先生方を見ていると、私も患者の皆様により医療を提供できるよう頑張らなければという気持ちになります。ここにも「私にとって大切な」人たちがいるわけです。

新年度の当院の目標は「患者様にわかりやすい丁寧な説明を心がけよう」です。難しい専門用語は避け、ご理解いただけるようスタッフ全員で取り組んでいこうと思います。



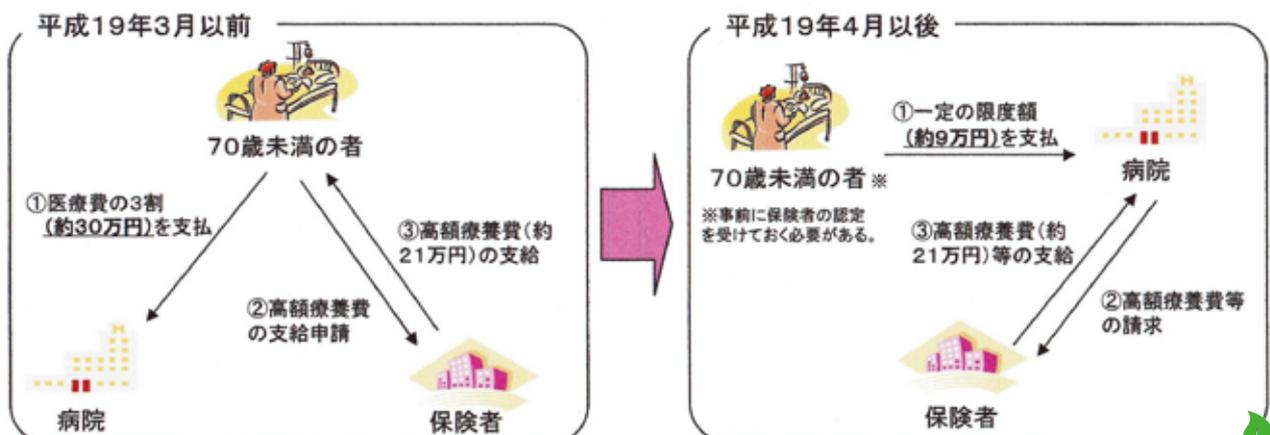
## 70歳未満の者の入院に係る高額療養費の現物給付化についてお知らせいたします。

平成19年4月1日より、70歳未満の者の医療機関における入院に係る高額療養費を現物給付化し、窓口での支払いを自己負担限度額にとどめることができるようになります。

(ただし入院時に事前に申請をし、認定を受けておく必要がございます。)

※70歳以上の者が入院した場合、現在すでに自己負担限度額までの支払いとなっております。

(例) 乳ガンの手術で10日間入院した時(100万円の場合)



乳腺腫瘍科外来  
塩谷 聡子



乳がんは早期発見すれば95%が治癒すると言われています。そのため、定期健診や自己検診で早期に発見することが大変重要です。また、仮に乳癌の診断を受けてしまったら、次は精密機関で受ける最初の診断法・治療法が重要になります。私達は、診断や手術はもちろん、術前・術後治療を通して、患者様個々の生活スタイルの中で最新かつ最善の治療法を提案して参ります。悩み事があつたら、いつでも、どんな事でも良いです。声をかけて下さい。

乳腺腫瘍科外来  
徳永 えり子



4月から毎週水曜日の午前中と木曜日に乳腺専門外来及び手術を担当させていただきます。これまで九州大学病院第二外科で乳腺疾患の診療に従事してきました。乳癌の患者さんや乳房に悩みを抱えた患者さんの声にできるだけ耳を傾け、患者さんにわかりやすく満足してもらえる医療を提供できるようがんばりたいと思います。及川病院には大学病院にはない、学ぶべき点がとても多いと思います。院長先生はじめスタッフの皆様には大変お世話になります。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 新任医師のご紹介

緩和ケア病棟  
安野 広三



はじめまして、九州大学心療内科の安野広三と申します。この度、4月から及川病院の緩和ケア病棟で、毎週月曜と第3、5週土曜日にお世話になることになりました。私は10年余り内科医としての診療を経て、その後現在の心療内科で勤務いたしております。緩和ケア病棟では患者様が少しでも有意義に時間を過ごしていただけるよう尽力したいと存じます。皆様には色々ご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

緩和ケア病棟  
嶋本 正弥



4月より、毎週火曜日、第一土曜日に四階の緩和ケア病棟、外来でお世話になっております。勤務日以外は、九州大学で立ち上げたばかりの緩和ケアチームで外来、入院のがん患者さんの症状緩和にかかわっております。及川病院で、これまで育まれてこられた診療を勉強させていただくとともに、院長先生のもと、病棟、外来の看護師さん、皆さんと協力してがん患者さんの身体症状、精神症状の緩和に努めていきたいと思ひます。これからもよろしくお願ひいたします。

## ～及川病院乳腺外来のご紹介～

乳腺外来は、診察をはじめ乳腺エコー・マンモグラフィなどがありますので診察の前に乳腺更衣室でガウンに着替えていただいております。このガウンは当院で検討して作成したオリジナルのガウンです。着やすく肌さわりが良く透けない素材を探して作成しました。色は少し薄いほうが当院のイメージカラーに近いとも思ったのですが、色が薄いと透けて見えそうで不安だと思い濃い色を選びました。結構評判が良く、「どこで売っているの？」と尋ねられたこともあります。（残念ながら非売品です）

乳腺の中待合室は医師以外の男性は立入禁止となっております。ガウン姿を男性に見られることはありませんのでご安心ください。放射線技師や検査技師も女性です。

乳腺の外来へは「癌だったら？再発だったら？」などと不安な気持ちで緊張しておいでのことと思います。お待たせすることもあり心苦しく思うこともしばしばですが、ご満足のいく診療を心がけてまいりますので、何かございましたらどうぞお気軽に医療スタッフへ声をおかけください。



## ～食事の楽しみを支える～

患者様に病院の食事を楽しんで頂くために、美味しい食事の提供に努めることは勿論のこと、良い雰囲気があること、見た目に美しいことも大切なことだと思います。

そのような環境作りの一つとして、食事量が多いと食べられない患者様用に食事量を半分にして提供する取り組みを行っています。

その際、量を減らした食事を通常の器に入れるのではなく、小さな器に盛り付けを行っています。

通常量の食事



1/2量の食事



これらの器の導入時、栄養科メンバーに加え看護スタッフからのアドバイスにて、見た目の彩りだけでなく、より使いやすい食器について検討することができました。

試行錯誤の中での試みですが、業務内容は異なっても「患者様に食事を楽しんで頂きたい」という思いは病院スタッフに共通していることから、今後も多職種の協力の元、改善を重ねてきたいと考えています。（管理栄養士 伊達）



乳癌の予防のうち、化学予防とは天然、合成化学物質または生物製剤を用いて、浸潤癌に進展するまでの過程を逆転、抑制、または予防することです。乳癌の高危険群の女性(例えばBRCA1/2の変異という乳癌の好発遺伝子をもつ人々)の取るべき対策は、厳重な監視、化学予防、予防的両側卵巣摘出術、または予防的乳房切除術であります。欧米では実際に行われています。LHRHアゴニスト(ゴセレリンなど)、アロマターゼ阻害剤なども試験されていますが、結果はまだでていません。抗エストロゲン剤(SERM)による化学予防の大規模な無作為比較試験が6件あります(タモキシフェン、4件、ラロキシフェン、1件、両者の比較、1件)。タモキシフェン(ノルバデックス)5年、またはプラセボ5年の比較が4件行われ、比較的乳癌のリスクが高い2,471人、5,408人、13,388人、7,152人がそれぞれ登録されました。乳癌の発生は後2者で、それぞれ、50%、32%低下しました。ラロキシフェン(エビスタ)の試験は7,705人の登録で、乳癌の頻度を62%低下しました。ラロキシフェンとタモキシフェンの無作為比較試験には19,747人が登録され、5年間の乳癌のリスクの低下はほぼ同程度でありました。このように、欧米の多数の閉経後の女性の協力を得て行われた試験において、乳癌のリスクが半減したことは大きな意義があると思います。しかし、このような化学予防が女性に受け入れられるか否かには色々の問題があります。米国の臨床腫瘍学会(ASCO)や食料医薬品局(FDA)の推薦にもかかわらず、高リスクの女性の5%から47%のみがTAMの服用を受け入れたという報告があります。その理由には、少ないものの子宮内膜癌と血栓塞栓症のリスク上昇などの副作用があること、どのような人に最適であるかがはっきりしないこと(多くの試験では中等度以上の乳癌のリスクの人を選んでいます)、エストロゲンレセプター陰性(ホルモン反応性が低い)の乳癌の予防には不十分などがあります。結局、高危険度の女性に対してTAMの化学予防の利益と危険性に関するカウンセリングが必要です。皆さまはどのようにお考えですか？ わが国も乳癌の発生頻度が非常な勢いで増加しており、欧米なみになる日は近いと思います。今のうちに乳癌の予防について考えておくことが大切であると思います。